

冒険心が飛翔する“100人の戯空間”

ウイング フィールド

〒542-0083 大阪市中央区東心斎橋2-1-27 周防町ウイングス6F

TEL(06)6211-8427 FAX(06)6211-6312

ウイングフィールド公式サイト URL <http://wing-f.main.jp/>

万博設計企画

俳優設計「戯曲を読む①【リーディング】」

6/10(月) 7:00 『リボルバー』 作：大竹野正典

参加費：無料（カンパ制・要予約）

万博設計企画

俳優設計「戯曲を読む②【読解】」

15(土) 7:00 『リボルバー』 作：大竹野正典

参加費：無料（カンパ制・要予約）

令和元年度 大阪現代舞台芸術協会(DIVE)総会

19(水)

意見交換会 7:00

総会 8:00

作・演出／玉井江吏香

「ツイノスミカ」

出演／Unit out

22(土) 7:00

23(日) 1:00

料金／一般 2,500円 学生 2,000円（要学生証）

早割 一般 2,000円 学生 1,500円

（6月14日（金）23:59 までのご予約の方）

長距離割引 300円割引（要証明証）

（大阪府外よりご来場の方が対象となります。）

旗劇

第21回関西現代演劇俳優賞（2）

九鬼 葉子

女優賞の金子順子（コズミックシアター）は、空の驛舎「かえりみちの木」でソーシャルワーカー・山本を演じた。様々な人生の変遷を経て、今は山あいの施設で統合失調症の患者の世話をしている人物。この作品は、流転する現代社会の生きにくさの中、何とか希望を見出し、生き抜こうとする庶民の姿を描いた真摯な会話劇で、作者・中村ケンシの辿り着いた人生観が、山本の台詞に託されている。長台詞が多いが、金子は観客に背を向けたまま、言葉のエネルギーを観客の心に響かせた。舞台奥に高くそびえる、樹齢千年の神性を帯びた大木を意識された演技。背中だけで心の動きを明確に伝える身体性と台詞術に感服。戯曲を繊細に読解、一つ一つの言葉に込められた作者の人生に寄り添うように語り、本当に自分の言葉にされる。ご自身の人生との向き合い方が反映された、長年の鍛錬が伝わる堂々たる演技。類まれな女優だ。

男優賞の高口真吾は、清流劇場「アンドラ」で、架空の国・アンドラでユダヤ人として差別される青年・アンドリを演じた。出生の秘密があり、実はユダヤ人ではないのだが、反ユダヤ主義者が作り上げた、臆病、拜金主義といったユダヤ人のイメージで周囲から差別されるうち、自分がそういう人間だと思い込んでしまう。最初は音楽好きの純朴な若者として澁刺と登場するが、夢が一つ一つ崩され、内向し変貌。傷付くたびに顔つきまで変わっていく、心理の推移を正確に描写。最後は虐

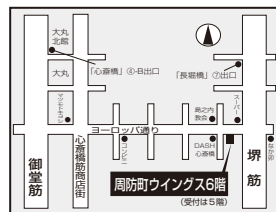
殺されるという、絶望に向けて一直線の苦しい役だが、難役の課題を乗り越え、無駄と力みのない演技で熱演した。

奨励賞の古谷ちさ（空晴）は、少年に間違われる女の役など、中性的な魅力を個性にしてきたが、2018年は大人の女性の役へと脱皮。南河内万歳一座との合同公演「隠れ家」で、迷える青春から抜け出せない、見目麗しい女性を演じた。暗喩による長台詞の奥にある乙女心。内なるエネルギーを放出させ、現代女性の等身大の悩みや迷いを描写した。

他の候補者では、兵庫県立ピッコロ劇団から、森万紀。「小さなエイヨルフ」での、夫の愛情への不安と飢餓感に揺れる貴婦人の個性的な造形。樫村千晶の「蒲団と達磨」での、夫との性生活がうまくいっていない主婦の内面の揺らぎと機微。森好文は同作で、性的に妻を満足させられない不安と欠落感を抱える男の哀しみを、身体から滲ませた。

リリパットアーミーⅡのうえだひろしは、「眠らぬ月の下僕」（玉造小劇店配給芝居）で、昭和初期に14歳で満州に渡った男の人生の流転を演じた。激動の時代の中、純朴な少年がスパイへと変貌する。これまでも実に様々な役を演じてこられたが、どの役を演じて、どきどきするほどかっこいい。演じる役のよいところを見つけ出し、膨らませる術をお持ちの、華のある俳優だ。（敬称略）

（演劇評論家・大阪芸大短期大学部教授）



次代を担う表現活動を、微力ながら支援します。

す おう まち
周防町ウイングス